

白山大笠池の水生昆虫を中心とする動物相

上馬 康 生 石川県白山自然保護センター

A PRELIMINARY REPORT OF FAUNA OF OOGASA POND IN MT. HAKUSAN

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

白山の高地の湿地、池塘の動物相については、長時間の登山を要したり登山道がなかったりするため、今までほとんど調査されておらず、平井・谷田(1983)、福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(1998)、上馬・佐川(2007)など少数の報告のみしか知られていない。今回、白山北部の大笠山にある大笠池の水生昆虫を調査したので、同時に観察できた他の動物もあわせて報告する。昆虫の同定をいただいた石川県ふれあい昆虫館の富沢章氏と、現地調査に同行していただいた村中克弘氏に感謝の意を表します。

調査地と調査方法

大笠池は石川県白山市と富山県南砺市の境に位置する大笠山(標高1,822m)の山頂の西方約500mにあり、標高は約1,720mである(図1)。大笠山山頂までは富山県側から登山道があるが、山頂から池までは一部で2mに達する樹木の茂みやササ原の中を空中写真と地形図を判読しながら行った。池の大きさは長径約80m×短径約30mの楕円形で、東側から雨水の流入する溝があり、周辺から流れてきたと考えられるササ等の枯れた茎や葉が多数浮かんで水面を被っていた。また西方にも溝状の地形があり、溢れた水は西方へ流れ出ていると考えられた。北側と南側は急傾斜で、すり鉢状となっており水深は深いところで3m以上はあると推定され、浅い水底は少ない。池の西方に一部浅いところがあったが、水底に植物は見つからず、ササの葉や茎が多く沈んでおり、泥の層は2~3cmであった。周辺の植生はダ

ケカンバ、オオシラビソ等の低木とチシマザサであった(写真1)。捕虫網とタモ網による昆虫の採集の他、目視観察で鳥類と両生類を記録した。

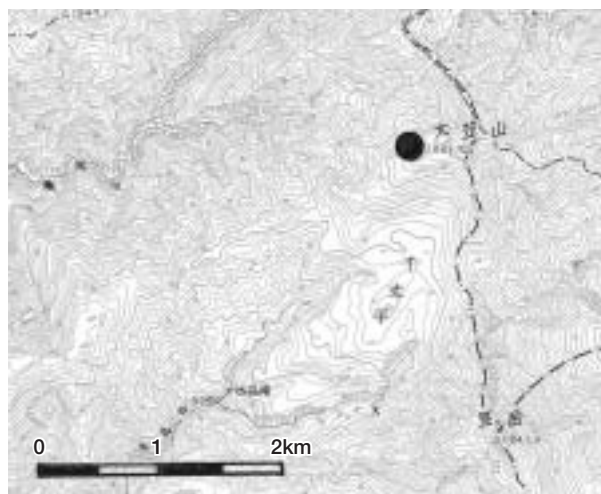


図1 調査地

国土地理院発行5万分の1地形図白川村を使用



写真1 西方から見た大笠池

表1 大笠池で記録された動物

昆虫綱 Insecta	トビケラ目 Trichoptera	トビケラ科 Phryganeidae	アミメトビケラ <i>Oligotricha fluviipes</i> (Matsumura)
	トンボ目 Odonata	ヤンマ科 Aeschnidae	オオルリボシヤンマ <i>Aeshna nigroflava</i> Martin
		エゾトンボ科 Corduliidae	タカネトンボ <i>Somatochlora uchidai</i> Forster
	カメムシ目 Hemiptera	トンボ科 Libellulidae	ネキトンボ <i>Sympetrum speciosum speciosum</i> Oguma
両生綱 Amphibia	アメンボ科 Gerridae	アメンボ属の一種 <i>Gerris</i> sp.	
	コウチュウ目 Coleoptera	ゲンゴロウ科 Dytiscidae	マメゲンゴロウ <i>Agabus japonicus</i> Sharp
鳥綱 Aves	サンショウウオ目 Caudata	サンショウウオ科 Hynobiidae	クロサンショウウオ <i>Hynobius nigrescens</i> Stejneger
	カエル目 Salientia	アオガエル科 Rhacophoridae	モリアオガエル <i>Rhacophorus arboreus</i> (Okada et Kawano)
哺乳綱 Mammalia	アマツバメ目 Apodiformes	アマツバメ科 Apodidae	ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i> (Latham)
	スズメ目 Passeriformes	セキレイ科 Motacillidae	ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i> Richmond
		イワヒバリ科 Prunellidae	カヤクグリ <i>Prunella rubida</i> (Temminck & Schlegel)
		ウグイス科 Sylviidae	ウグイス <i>Cettia diphone</i> (Kittlitz)
		シジュウカラ科 Paridae	ヒガラ <i>Parus ater</i> Linnaeus
		カラス科 Corvidae	ホシガラス <i>Nucifraga caryocatactes</i> (Linnaeus)
サル目 Primates	オナガザル科 Cercopithecidae	ニホンザル <i>Macaca fuscata</i> (Blyth)	

調査結果とまとめ

調査は2008年7月16日に行なった。昆虫類ではネキトンボが連結して飛んでいる2個体と水面上に被さったササの葉に止まる雄1個体(採集)を目撃し、オオルリボシヤンマの中令及び終令幼虫を6個体、タカネトンボの終令幼虫を1個体、水深の浅いところの落ち葉の中にいたマメゲンゴロウ10個体以上の内の雌2個体、アミメトビケラ1個体、アメンボ属の一種の雌2個体を採集した。アミメトビケラは、筆者は別山御手洗池や砂防新道2,130m付近の池などで観察しており白山の池塘では稀ではないが報告はされておらず(石川むしの会・百万石蝶談会, 1998)、今回が初めての報告となる。アメンボ属の一種はコセアカアメンボ、エゾコセアカアメンボのいずれかであるが同定できていない。

両生類ではモリアオガエルの卵塊5と生体の鳴き声3+, クロサンショウウオの卵塊3+と生体4+, 鳥類ではウグイス、カヤクグリ、ビンズイ、ヒガラ、ハリオアマツバメ、ホシガラスを、哺乳類でニホンザルを記録した(表1)。ハリオアマツバメは約1時間の内に池の水を飲みに5回以上飛来した。付近の上空に10+の飛翔がみられ、近くに繁殖地がある可能性がある。ニホンザルは大笠池のすぐ東側で30+の群れに遭遇した。大笠山山頂近くなどでも声と姿を確認したことから、群れの個体数はより多い

と考えられる。大笠山山頂周辺では1997年6月22日に群れの記録があり(上馬, 1999)、同じ群れの可能性があるが白山地域で識別されている群れかどうかは不明である。ちなみに発信機首輪をつけた個体は目撃していない。

白山には小規模な湿地や池塘は各地にあるが、登山道沿いのものを含めほとんど詳しい調査は行われていない。今後各地で調査することで新たな発見があると思われる。今回は7月の1日だけのあくまでも予備調査であり、季節を変えた調査も必要と考える。

文 献

- 平井賢一・谷田一三(1983) 白山の高山池沼の動物プランクトン. 石川県白山自然保護センター研究報告, 9, 25-38. (英文)
- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会(1998) 福井県昆虫目録(第2版). 556pp. 福井県県民生活部自然保護課.
- 石川むしの会・百万石蝶談会(1998) 石川県の自然環境シリーズ石川県の昆虫. 537pp. 石川県環境安全部自然保護課.
- 上馬康生(1999) 白山山系北部地域のニホンザルの記録. 石川県白山自然保護センター研究報告, 26, 27-32.
- 上馬康生・佐川貴久(2007) 白山判官堂湿原のトンボ類を中心とする動物相. 石川県白山自然保護センター研究報告, 34, 31-33.